中部地区物流センター設置に合わせコンテナ利用開始

1949(昭和24)年に広島で創業した三島食品㈱は、ロングセラー商品の『ゆかり®』をはじめ、ふりかけ・混ぜごはんの素・お茶漬・青のり・調味料の他、業務用レトルト惣菜を製造販売している。

三島食品の表誠(おもて)治物流センター長は「定番の『ゆかり®』は赤しその種を産地に供給して栽培してもらうなど、高品質を保つ取り組みを行っています。『かおり®』(青じそ)と『あかり®』(ピリ辛たらこ)を合わせて、ふりかけ三姉妹とSNSで紹介されたのをきっかけに名前シリーズを展開しており、最近では広島菜の『ひろし®』やひじきを使った『ひでき®』も人気です」と話す。

ふりかけなどのドライ商品を中心に生産する広島工場と業務用レトルトパウチ食品を生産する関東工場の近くには、それぞれ自社で運営する広島物流センター(広島県広島市)・関東物流センター(埼玉県日高市)がある。他に、市販用商品のみを在庫する委託の物流センターを近畿地区に置いているが、さらに2025年9月、愛知県一宮市にも設置した。

「食品の納品時間はかなり厳しく、ほとんどが午前中で、午前10時半までの場合もあります。近年、トラックドライバー不足で路線便のリードタイムが長くなってきていて、積み残しとなれば1日遅れてしまいます。コストはかかりますが、リスクを回避し、東海・北陸地区への確実な配送のため、新たに在庫拠点を設けて食品輸送の専門事業者に任せることにしました」と表物流センター長は背景を説明した。

表物流センター長

この機に、三島食品では広島(タ)ー岐阜(タ)で12ftコンテナの利用を始めた。

「従来はトラック輸送のみでしたが、2030年に向け幹線輸送が難しくなるのではないかという懸念があり、貨物鉄道へのモーダルシフトを検討しました。広島工場では地域の小学校の社会科見学や一般企業からの見学を受け入れていますので、物流において環境に配慮する姿勢を打ち出す必要性も感じていました。そこへ日本通運から利用の提案を受けたのです」と振り返る。

日本通運㈱Westカンパニー営業部 中国・四国営業グループ(当時)の髙木将司さんは「広島工場の近くに当社倉庫があり、以前から三島食品様の輸入貨物を扱っていました。商品も預けていただいていましたので、貨物鉄道の利用をご提案しました」と話す。

関東物流センターから小牧市の大手ユーザー物流センターへは定期的に12ftコンテナを利用しているが、広島からの利用は初めて。

「輸送モードを増やして安定的な物流を維持したい。急に必要になってもすぐには鉄道コンテナを利用できないかもしれないので、まずは使ってみよう」と考えた表物流センター長の背中を押した理由は、いくつかある。

三島食品の商品

三島食品広島工場へ入るトラック

工場内でトラックに積み倉庫へ移動する

キリンのパレタイザーは小学生に人気

日本通運の倉庫　到着した集配トラック

パレット積みの商品を出庫

コンテナへ積み付ける

隙間にエアバッグを入れる

養生材を入れて閉扉する

広島(タ)に向け倉庫を出発

持続可能な物流を目指して

「当社はこれまで12型パレット(1,200×1,200mm)をメインに使っています。契約しているトラック事業者には、12型を横に2枚積める特殊仕様の車体を作ってもらって輸送していますが、それをずっと続けられるとは限りません。そこで、持続可能な物流を目指し、標準規格の11型パレット(1,100×1,100mm)へ徐々に転換したいと考えています。新商品を出すときには11型パレットに収まる商品設計・ケースサイズに、現在12型パレットの使用を前提としているパッケージもリニューアルなどのタイミングで変更を検討したい」。

11型パレットは以前から約300枚保有していたが、鉄道利用開始に合わせて300枚増備した。12ftコンテナには11型パレットが6枚積載できる。

至近に日本通運の倉庫があったのもメリットとなった。広島工場で11型パレットに積み付けた商品は、トラックでいったん日本通運の倉庫に移送し、翌日12ftコンテナに積載して広島(タ)へ持ち込む。

「広島工場・物流センターはともに手狭で、12ftコンテナが集貨に来ても対応できません。日本通運さんの倉庫に入れてしまえば、あとの出荷作業はお任せできる。新商品を発売前に、在庫を積み増して保管することもできます」と使い勝手を評価する。

今後の鉄道コンテナ利用については「天候による輸送障害対応が整い、運賃などの条件が合えば、広島から関東物流センターへの幹線輸送や大手小売店の物流センター向けなど、量・単位が大きい輸送はモーダルシフトの検討対象となるでしょう。出荷時期を調整することで対応できる可能性が高いですから。いずれは長距離のスポット利用も検討したいですね。また、原料輸送は資材部署の担当ですが、それを鉄道コンテナにシフトできればトラック輸送に余裕ができ、他の物を効率的に輸送できるかもしれません」と表センター長は展望した。

JR貨物広島(タ)小西助役　日本通運髙木さん　三島食品表物流センター長　JR貨物広島支店久住副支店長